



梅雨の期間は、果実腐敗性病害（輪紋病・炭疽病・褐斑病）の感染・拡大に好適な高温・多湿状態になります。特に 6 月中下旬～7 月上旬頃の薬剤散布が遅れると一気に病気の感染・拡大が進みます。6 月以降の薬剤散布は概ね 15 日間隔で進めますが、長期的に雨が続く予報が出た場合は、予定より散布を早める対策を講じてください。尚、6 月中下旬の薬剤散布は下記の内容を参考にして実施してください。

## りんご

### 6 月中下旬の薬剤散布(前回より 15 日後)

◆ 散布日 月 日

◆ 散布量 リットル

散布時期：6 月 20 日～25 日 \*注意事項①、②、③参照

散布薬剤：水	1 0 0	リットル	
展着剤	1 0 ml		*注意事項④参照
キノンドーフロアブル	1 2 5 ml		(14 日前、4 回)
オーソサイド水和剤 8 0	1 2 5 g		(14 日前、6 回)
オリオン水和剤 4 0	1 0 0 g		(前日、2 回) *注意事項⑤、⑥、⑦参照
スイカル	1 0 0 g		(カルシウム剤) *注意事項⑧、⑨参照

散布量：10a 当たり 600 リットル \*注意事項⑩参照

対象病虫害：炭疽病、輪紋病、斑点落葉病、褐斑病

シンクイムシ類、ハマキムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、カイガラムシ類、ケムシ類、(ハダニ類)

#### 【注意事項（輪紋病・炭疽病・褐斑病防除対策他）】\*必ずお読みください。

- ① 前回（6 月上中旬）の薬剤散布が遅れた場合は、上記の目安時期より前倒して散布する。
- ② 炭疽病・輪紋病の感染が心配される場合は、6 月末～7 月初旬頃にオキシラン水和剤 500 倍を特別散布する。
- ③ 6 月末まではサビの発生しやすい時期なので高温時の散布は避けること。
- ④ 通常展着剤（ハイテンパワー等）に代えて、固着性展着剤のアビオン E の 1,000 倍（100 リットルに 100ml）を使用すると薬液付着効果が高まる。
- ⑤ オリオン水和剤 40 は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑をお持ちください。
- ⑥ オリオン水和剤 40 に代えて、サイアノックス水和剤の 1,000 倍（45 日前、2 回）でも良い。
- ⑦ ハダニ類の発生が心配される場合は、カネマイトフロアブル 1,000 倍（7 日前、1 回）を加用する。
- ⑧ カルシウム剤「スイカル」の 1,000 倍は、ビターピット・果実軟化防止や果実からの油上がり予防、果実の日持ち性向上、新梢の徒長抑制などに効果があるので、必要により加用する。
- ⑨ スイカルに代えて、ストピット II の 500 倍を使用してもよい。ストピット II は、カルシウム成分の他に有機皮膜補助剤が混合されており、カルシウム補給と併せて幼果期の果面保護効果がある。尚、ストピット II の効果面・使用方法等不明な点は、園芸技術課担当までお問い合わせください。
- ⑩ 園全体によく飛散するように、散布量は多めに設定する。特に園が込み合っている場合は、外周等に死角がないように注意する。

◆ 次回の薬剤散布予定：7/5～10 頃  
引き続き、輪紋病・炭そ病の重要防除になります。